

## ■伝統的建物などの修景基準の解説

住吉の歴史や文化を今に伝える建物は、質の高い素材と建築技術によって建てられています。地区内には、江戸後期から戦前にかけて建築された町家をはじめ、様々な様式の伝統的建物が点在しており、歴史や文化を今に伝えるとともに住吉のまちなみを端正で風格あるたたずまいにしています。

そこで、伝統的な様式や特徴を受けつぎ活かしながら、現代の生活様式や店づくりに応じて柔軟に修景することが大切です。そうすることによって新しい魅力を創りだしていきましょう。

### 素材・色彩

#### ■基準

素材は伝統的素材や自然素材を用い、やむを得ない場合には、色合いや素材など周辺に違和感のない建材を用いる。

現存する伝統的建物に使われている素材は、住吉の長い歴史の中で育まれ、風土になじんだもので、時間とともに味わいが増してきます。

#### ■基準

色彩はけばけばしい色合いを用いず、まちなみに調和した明度・彩度を基調とする。

伝統的建物は、無彩色か茶系の色を基調としています。これらの色はまちなみに落ち着きを与えます。



伝統的素材は、木・土などの自然素材なので、温度や湿度、換気など自然の調整機能と耐久性に優れ、表情にも温かみを感じられます。

### 外観輪郭

#### ■基準

伝統的建物の外観をバラベット等で覆わず、庇を復元するなど伝統的建物の輪郭を保全する。

伝統的建物は屋根、庇、壁面などによって独特の輪郭が形づくられています。これらが道路に沿って連なることで、美しく連続感のある住吉のまちなみ景観を形成しています。



バラベット（9頁参照）を外し、伝統的な町家の外観輪郭を復元した例（平野郷地区）



道路に沿って伝統的建物の輪郭が連ち並び、美しく連続感のある景観となっています。

### 屋根

#### ■基準

切妻・平入り、和瓦葺きを原則とする。伝統的な屋根勾配を基本とする。

住吉大社周辺地区の伝統的建物（主に町家）の屋根形態には以下に掲げる特徴があります。緩やかに曲がる道や坂に沿った家なみとともに、勾配屋根の見え方が変化することで、一体感のある美しいまちなみとなっています。

#### ●切妻・平入り

道路と平行に棟を通して、屋根を2つの面だけで構成する切妻屋根で、玄関が道路に面して設けられています。妻側を隣家と接して建てています。

#### ●屋根勾配

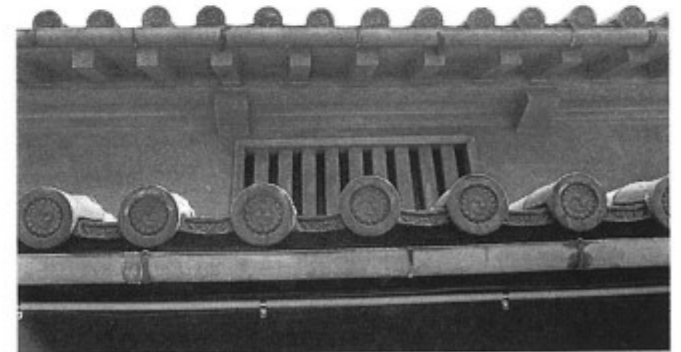
屋根は、建物を雨から守るために一定の勾配をつけています。

#### ●和瓦葺き

屋根瓦は、古くは黒色本瓦の和瓦葺きが基本となっていました。現在では棧瓦も見られます。



袖卯建（そでうだつ）  
町家の2階部分の正面両側につけられた袖壁で、防火や目隠しの役割があります。



#### 瓦（かわら）

粘土を焼いてつくる瓦は1400年の歴史をもち、紫外線や大気汚染に強く、耐火性、通気性に優れています。焼きむらや焼き具合の異なる瓦、また鬼瓦や役瓦により多彩な表情がでます。

#### 本瓦葺き（ほんがわらぶき）

平瓦と丸瓦を交互に用いた葺き方



#### 棧瓦葺き（さんがわらぶき）

波形の瓦（棧瓦）を用いた葺き方



### 庇（ひさし）

#### ■基準

できる限り元の形状へ復元する。華やかな意匠とならないようまちなみに調和したものとし、伝統的な意匠を活用する。

伝統的建物では、庇の出が大きな特徴となっています。庇は雨の進入や日照を防ぎ、通風を確保する日本の風土をふまえた知恵であり、雨宿りや立ち話しができる場所でもあります。そして、庇のラインによって美しく連続感のあるまちなみが形成されています。



隣家とほぼ同じ高さに庇を設けることにより、まちなみに連続感が感じられます。